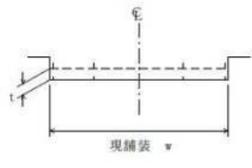
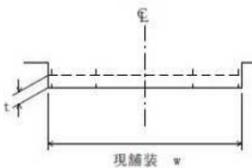
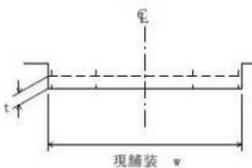
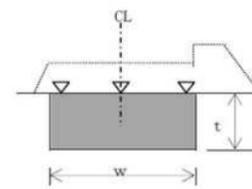
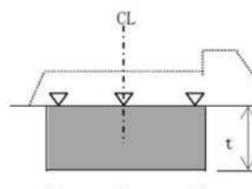
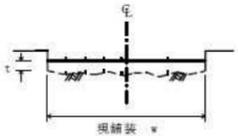
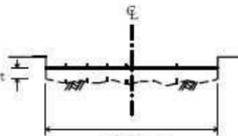
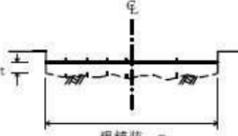


出来形管理基準新旧対照表

現行										改定										改定理由					
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要		
							個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X10) *面管理の場合は測定値の平均											個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X10) *面管理の場合は測定値の平均					
3	2	6	15		路面切削工	厚さ	-7	-2	厚さは10m毎に現舗装高切削後の基準高で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。 測定方法は自動横断測定法によることができる。			3	2	6	15	1	路面切削工	厚さ	-7	-2	厚さは10m毎に現舗装高切削後の基準高で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。 測定方法は自動横断測定法によることができる。				
						幅 W	-25	-										幅 W	-25	-					
																		厚さ t (標高較差)	-17 (17) (面管理として緩和)	-2 (2)	1. 施工履歴データを用いた出来形管理要領(案)(路面切削工編)に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ t または標高較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 3. 厚さ t または標高較差は、現舗装高切削後の基準高との差で算出する。 4. 幅は、延長40m毎に測定するものとし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。			諸基準類の改定に伴う	
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要				
3	2	7	9	2	固結工 (中層混合処理)	基準高 ▽	設計値以上	1,000m3~4,000m3につき1ヶ所、又は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。 1,000m3以下、又は施工延長40m(50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 施工厚さは施工時の改良深度確認を出来形とする。 「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は不要)。			3	2	7	9	3	固結工 (中層混合処理)	基準高 ▽	設計値以上	1,000m3~4,000m3につき1ヶ所、又は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。 1,000m3以下、又は施工延長40m(50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 施工厚さは施工時の改良深度確認を出来形とする。 「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は不要)。						
						施工厚さ t	設計値以上										施工厚さ t	設計値以上							
						幅 w	設計値以上										幅 w	設計値以上							
						延長 L	設計値以上										延長 L	設計値以上							

出来形管理基準新旧対照表

現行										改定										改定理由				
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	
							個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X10) *面管理の場合は測定値の平均											個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X10) *面管理の場合は測定値の平均				
10	14	4	5		切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2	厚さは10m毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	10	14	4	5	1	切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2	厚さは10m毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	
						厚さ t (オーバーレイ)	-9																	
						幅 w	-25																	
						延長 L	-50																	
						平坦性	-	3mプロフィールメーター(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下																
											10	14	4	5	2	切削オーバーレイ工 (面管理の場合) 厚さ t または標高較差 (切削) のみ	厚さ t (標高較差) (切削)	-17 (17)	-2 (2)	1. 施工履歴データを用いた出来形管理要領(案)(路面切削工編)に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ t または標高較差 (切削) を算出する。計測密度は1点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 3. 厚さ t または標高較差 (切削) は、現舗装高と切削後の基準高との差で算出する。 4. 厚さ (オーバーレイ) は40m毎に「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。 5. 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	諸基準類の改定に伴う	
																	厚さ t (オーバーレイ)	-9						
																	幅 w	-25						
																	延長 L	-50						
																	平坦性	-	3mプロフィールメーター(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下					

写真管理基準新旧対照表

現行										改定										改定理由
編	章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要	編	章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要	
						撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度								撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9	1	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 杭径	1施工箇所 に1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚		3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9	1	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 杭径	1施工箇所 に1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚		諸基準類 の改定に 伴う
						深度										1施工箇所 に1回 〔打込前後〕				
																ただし、(スラリー攪拌工)において、「施工履歴データを用いた出来形管理要領(固結工(スラリー攪拌工)編)(案)」により出来形管理資料を提出する場合は、出来形管理に関わる写真管理項目を省略できる。				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9	2	固結工 (中層混合処理)	施工厚さ 幅	1,000m ³ ~4,000m ³ につ き1回、又は施工延長 40m(測点間隔25mの場 合は50m)につき1回。 〔施工厚さ 施工中〕 〔幅 施工後〕	代表箇所 各1枚		3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9	3	固結工 (中層混合処理)	施工厚さ 幅	1,000m ³ ~4,000m ³ につ き1回、又は施工延長 40m(測点間隔25mの場 合は50m)につき1回。 〔施工厚さ 施工中〕 〔幅 施工後〕	代表箇所 各1枚		諸基準類 の改定に 伴う
																ただし、「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)」により出来形管理資料を提出する場合は、出来形管理に関わる写真管理項目を省略できる。				